

(兼題)

「祝う」

岡 あきら 選

佳句

喜寿祝い貰った杖が役にたつ  
友の恋心の底からおめでとう  
祝われる人より祝う人が燃え  
弟妹の感謝で綴る祝米寿  
お祝いに母のおはこの豆御飯

人

桂子  
らんまん  
ちかし  
ゆきこ  
らんまん

合格祝親子の寿司がよく回る

地

伊藤 寿美

ひと吹きで消せぬローソクおめでとう

天

伊藤 玲峰

晩酌を一杯多くした祝い

軸吟

竹治ちかし

祝米寿湖畔の宿の四人組

岡 あきら

(兼題)

「素朴」

伊藤 玲峰 選

佳句

生姜煮の素朴な味に亡母想う灯  
素朴にはもうなれませんネオンの灯  
正月も晦日も同じ素朴者  
ふるさとの変らぬ風の声を聞く  
素朴だが笑顔で生きた八十年

人

利彦  
ちかし  
健柳  
らんまん  
弘子

自家野菜素朴な味を噛み締める

地

多久和敬子

ぶっかけのような素朴な人が好き

天

柳葉たえこ

都会でも擦れずに咲いている野菊

軸吟

西坂 瑞人

素朴だがガイナ器に生かされた

伊藤 玲峰

(兼題)

「数」

竹治ちかし 選

佳句

ありがとと言う回数が多くなる  
0の数かぞえて値踏みするダイヤ  
花占いびつたり合って恋成就  
数のある土産選んだ里帰り  
夢数多乗せた隼待つ八十路

人

健柳  
たえこ  
博子  
瑞人  
寿美

数々のつぶてを受けて強くなる

地

岸 桂子

十二桁の番号背負い生かされる

天

多久和敬子

数々の仕事があつて世が回る

軸吟

秋山 久子

指折って数えたお盆お正月

竹治ちかし

(席題)

「旅」

大福 利彦 選

人

長い旅して来たようにふりかえる  
旨い酒ありこの世の旅が長くなる  
雨の粒 森で育つて川の旅  
出雲弁たちまち仲間旅の宿

軸吟

吉川らんまん  
伊藤 玲峰  
伊藤 玲峰  
大福 利彦

出雲弁たちまち仲間旅の宿

地

大福 利彦